

グローバルエイズ問題
-開発途上国における HIV 対策に関する効果的アプローチの検討-

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
障害・行動分析クラスター
上原 誠子

昨今、世界では驚異的な早さで HIV 感染が拡大している。UNAIDS (2007) 発表によると、全世界の HIV 感染者及び、AIDS 患者の総数は約 3,320 万人に及んでいる。さらに HIV 感染の問題は感染者数の増加や治療環境の拡大といった課題だけでなく、感染が深刻な地域では国の平均寿命が短縮するといった問題にも派生し、早急で効果的な介入が望まれている。これまで HIV 問題に対して各国 ODA や、世界エイズ・結核・マラリア対策基金の投入がなされ、新規感染者数の減少を目指した予防啓発の実施や、AIDS による死者数の減少を目的とした抗レトロウイルス薬の供給といった対策が UNAIDS をはじめとした国際医療機関や NGO によって行われてきた。しかしながら、現在の医療をもって HIV ウイルスを撲滅する事は不可能であり、今後、効果的な HIV 対策を展開する為には、実証的な根拠に基づいた展望を提示する必要があると考えられる。そのためにもエビデンスに基づいた研究の促進と、研究から得られた知見に基づいた実践との連携を基本姿勢とした HIV/AIDS 問題の解決への糸口の探求が不可欠であると考えられる。

そこで本研究ではこの HIV ウイルスと人類が共存することに向けた、HIV 対策の方向性を対人援助学の観点より考察し、展望を述べる事とした。そして HIV 流行の今後の傾向を予測し、HIV 問題が深刻な地域において効果的で持続可能な援助を検討することとした。本研究の構成は以下の通りである。第 1 章では HIV/AIDS の病医学的情報の提示と流行の動向を示した。本章より HIV 感染に関する種々の問題が最も深刻なのはサハラ以南のアフリカ地域であり、その問題は非常に重層的であることが確認された。よって第 2 章では、サハラ砂漠以南のアフリカ地域に焦点を合わせ、UNICEF(2005)において問題提起されている社会的要因と HIV 問題の関連性を検討し、問題の重層性の検討を行った。そして第 3 章では HIV 対策を資金面で支える外国資本の介入の現状と、現場での HIV 対策の現状について情報を提示した。経済的側面の動向を整理した上で、賢明な資金の投入体制について検討を行った。最後に第 4 章では本論文を通じて提示された情報に基づき、今後の HIV 対策の方向性と対人援助学の観点からの介入の可能性について展望を述べた。ここでは HIV 感染者、AIDS 患者や家族のサポート体制への介入、患者の社会参加を支えるシステムに配慮する重要性に焦点を充て、対人援助者としての方向性と可能性を提案した。

以上本研究を通じて HIV 対策における援助の対象が焦点化され、問題の深刻化を促進する因子の検討を経た上での、現段階での援助体制の分析と今後の予測を提示し、今後の援助のビジョンの一例を提示出来たことは大変有意義であるが、これらは静的で検討済みの介入案としてではなく、将来に向けて拡大・発展していく漸進的な方法論と捉え、日々変化する環境を常に観察し、多領域の連携をもって修正を加えていくことが必要であると考えられる。